確定稿

朝霞市総合振興計画審議会（第5回）
会議録

平成26年2月17日

政策企画室

別記様式（第4条関係）

会 議 録

会 議 の 名 称	朝霞市総合振興計画審議会（第5回）	
開 催 日 時	平成26年2月17日（月） 午後2時00分から 午後3時58分まで	
開 催 場 所	朝霞市役所別館2階 全員協議会室	
出 席 者	別紙のとおり	
会 議 内 容	別紙のとおり	
会 議 資 料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次第 ・ 審議会委員名簿 ・ 資料番号5-1 第5次朝霞市総合振興計画基本構想の構成（たたき台） 	
会 議 録 の 作 成 方 針	☒ 電磁的記録から文書に書き起こした全文記録	
	☐ 電磁的記録から文書に書き起こした要点記録	
	☐ 要点記録	
	☐ 電磁的記録での保管（保存年限 年）	
	電磁的記録から文書に書き起こした場合の当該電磁的記録の保存期間	☒ 会議録の確認後消去 ☐ 会議録の確認後 か月
	会議録の確認方法 委員全員による確認	
そ の 他 の 必 要 事 項	傍聴者 2人	

第5回

朝霞市総合振興計画審議会（第5回）

平成26年2月17日（月）
午後2時00分から
午後3時58分まで
別館2階 全員協議会室

1 開 会

2 議 事

（1）第5次総合振興計画基本構想の大綱について

3 そ の 他

4 閉 会

出席委員（19名）

第1号 議員	市議会議員	大橋 正好
	市議会議員	小池 正訓
	市議会議員	田辺 淳
第2号 教育委員会委員	教育委員会	鈴木 泰代
第3号 農業委員会委員	農業委員会	小峰 保夫
第4号 市内の公共的団体等の役員・職員		
	朝霞市PTA連合会	渡邊 誠
	朝霞市社会福祉協議会	野本 正幸
	朝霞市自治会連合会	相ノ谷 昌男
	【副会長】 朝霞市商工会	鈴木 龍久
	朝霞市青年会議所	吉山 隼人
第5号 知識経験を有する者		
	【会 長】 東洋大学法学部教授	沼田 良
	東洋大学法学部教授	斎藤 洋
	大東文化大学経済学部教授	中村 年春
	(有)プロセスデザイン研究所	百武 ひろ子

第6号 公募による市民

大石正司
佐野隆
高橋明子
村上靖子
安野さくら

欠席委員（1名）

第5号 知識経験を有する者 大東文化大学環境創造学部准教授 島田恵司

事務局	審議監	田中幸裕
事務局	政策企画室長	村山雅一
事務局	同室主幹兼室長補佐	佐藤元樹
事務局	同室専門員兼政策企画係長	大瀧一彦
事務局	同室同係主査	又賀俊一
事務局	同室同係主事	山崎雅之

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

◎1 開会

○事務局・又賀主査

それでは、定刻となりましたので、朝霞市総合振興計画審議会第5回会議を始めさせていただきます。

なお、本日、島田委員から欠席の旨の連絡をいただいております。

本日は、次第と審議会委員名簿を机上に置いてございます。委員名簿につきましては、百武委員の肩書が前回抜けておりましたので、差替えさせていただきます。申し訳ございませんでした。

また、本日の配付資料といたしまして、資料番号5-1、第5次朝霞市総合振興計画基本構想の構成（たたき台）がございまして。

また、本日、第4次総合振興計画後期基本計画の冊子を使用しますので、お手元がない委員につきましては、挙手をお願いいたします。

以上、おそろいでしょうか。

それでは、議事に入りたいと存じますので、議長の沼田会長に進行をお願いいたします。

○沼田会長

皆さん、こんにちは。

1週間に2回も数十年ぶり的大雪というのがあって、まだ水曜もまた雪が予定されているようですけれども、お足もとの悪いところお集まりいただきましてありがとうございます。

まだ若干見えていない方もいらっしゃるようですけれども、定刻ですので会議を始めたいと思います。

早速入りたいところですが、平成25年12月19日、去年の19日付けで審議会議員のうち、市議会議員の杵三人のうち二人の方が代わられました。このうち、大橋委員については既前回御紹介いたしました。もうひと方、今日いらっしゃっています田辺委員を紹介いたします。

田辺淳委員です。

簡単に結構ですので、自己紹介をお願いいたします。

○田辺委員

皆さん、こんにちは。

私、今回1号委員に議会の方から選出されて、船本前委員、それから山口前委員の代わりということで、大橋さんと田辺、二人で交代で入りました。今日から参加させていただきますけれども、第4次の総合振興計画のときにも参加させていただいております。いろいろと第4次を踏まえて

も、次の計画ということで、是非よりよいものをつくっていきたいということで参加させていただきますので、皆様どうぞよろしくお願いいたします。

○沼田会長

それでは、会議に入ります。

まず初めに、この会議は原則公開としておりますので、傍聴要領に基づいて傍聴を許可することといたします。

事務局、今日の傍聴希望者は何人でしょうか。

○事務局・又賀主査

本日の傍聴希望者は、二人です。

○沼田会長

では傍聴要領に沿って、傍聴希望者を入場させてください。

(傍聴者入場)

○沼田会長

なお、会議の途中で傍聴希望があった場合には、傍聴席の範囲内で入場していただきます。御了承をお願いいたします。

◎2 議事(1) 第5次総合振興計画基本構想の大綱について

○沼田会長

それでは、本日の議事に入ります。

次第の(1) 第5次朝霞市総合振興計画基本構想の大綱について、本日の会議で何をするかをまず事務局から説明してもらいます。

○事務局・又賀主査

本日の会議では、ポイントとして2点ございます。

一つ目は、前は触れなかった点でございますが、基本構想の将来像「水と緑に満ちた やすらぎと生きがいのあるまち 朝霞」について、第4次のコンセプトを基本的に継承するのか、それとも、方向性を変えるのかという点と、二つ目は、前回お話した点ですが、市の施策の大枠である大綱をどのように分類するのかでございます。

本日配付させていただきました資料番号5-1、第5次朝霞市総合振興計画基本構想の構成(たたき台)を御覧ください。

こちらの資料は、基本構想の構成のあくまでもたたき台として作成しました。とりあえず、現行の第4次計画の基本構想の構成を元に整理してございます。個々の内容は、今後細かく詰めていく

こととなりますが、既に決定していただいたことと、大枠の構成として第4次計画を踏襲していくか、変更すべき点があるかどうか、また、構想の基本的なコンセプトについても、第4次計画から修正すべき点があるかどうかなど御意見をいただければと思います、用意いたしました。

まず初めに、「1 総合振興計画策定の目的」でございますが、第4次計画の内容を表記しております。この点については、構想の全体像がもう少し具体化した時点で御意見をいただきたいと考えております。

次に、「2 計画期間・目標年次」でございますが、こちらの計画期間と目標年次につきましては、この審議会において、既に計画期間を10年間とし、中間年の平成32年に基本計画を見直すことが決定されております。

また、「3 計画人口」も前回、第4回審議会において審議していただきまして、人口推計（案）のうち、基本推計案を採用することが決定されており、その場合、計画期間内における推計人口の最大値の内輪の近似値は約136,000人となっております。

次に、「4 基本理念」について、第4次計画のまちづくりの基本理念である「～市民が作り、育てるまち～」をそのまま表記しております。この点は、非常に重要な事項でございますので、後日時間を取って、十分議論していただきたいと考えております。

次に、2ページの「5 目指す将来像・基本目標・将来都市構造」でございますが、まず、「(1) 目指す将来像」のイメージについて、具体的な表現は後日詰めるとして、本日のところは、現行計画が示す将来像に何らかの修正を施す必要があるのかどうか、大筋の方向性について御議論いただけると有り難いと思います。

「(2) 基本目標」は、現行の計画にはありませんが、目指す将来像をもう少し具体化して、第4次計画からの継続性と市民意識調査等において多くの市民が望むまちのイメージなどから、住宅都市や公園都市といった、より具体的なまちづくりの目標を表記してもよいのではないかという考えで、仮に項目建てしたものでございます。

特に、「(3) 将来都市構造」につきましては、これから都市計画マスタープランの見直しと連動しながら具体化していくこととなりますが、双方が異なるコンセプトでまちづくりを考えるわけにはいきませんので、まず、私ども総合振興計画審議会の側から、朝霞市が目指す将来像、今後のまちづくりの方向性について、都市計画マスタープランの見直しを行う検討委員会に示していく必要があると考えております。

今日のところは、今まで目指してきた基本路線に何らかの変更が必要かどうかという点について検討していただければと思います。

次に、「6 将来像実現のための基本方針」でございますが、こちら、基本理念とともに大変重

要な事項でございますので、後日、時間を取って十分議論していただきたいと考えております。

最後に3ページ、「7 将来像実現のための施策の大綱」は、市の施策のジャンル分けですが、今後、各分野ごとに基本計画を立てていく際の体系の大本になります。

とりあえず、第4次計画のジャンル分けをそのまま掲載するとともに、市の機構改革や市民意識調査結果などを参考にして、たたき台としていただく案を次の4ページにつくってみました。

最後に、再度整理いたしますと、本日の会議では、第4次の基本構想の将来像である「水と緑に満ちた やすらぎと生きがいのあるまち 朝霞」という将来像について、このコンセプトを基本的に継承するのか、それとも、方向性を変える必要があるのかという点と、市の施策の大枠である大綱、資料の3ページと4ページの部分をどのように分類するのかという2点を御審議していただければと思います。

以上で、事務局からの説明を終わります。

○沼田会長

事務局からの説明が終わりました。

始めに、今日二つ論点があるようですが、一つ目の論点、資料番号5-1の構成案の中の2ページ目の将来像ですね。「水と緑に満ちた やすらぎと生きがいのあるまち 朝霞」というこの将来像のコンセプトをそのまま継承するのか、つまり第4次の、現在動いている計画の将来像をそのまま継承するのか、あるいはこれに変更を加えるのかということをもまず議論いただきたいと思えます。

何か質問や御意見はございますでしょうか。

○斎藤委員

質問ですが、本日の会議でこれを決めるということですか。もう一度確認なんですが、将来像のキャッチフレーズなども決めるということですか。

○沼田会長

いや、論議を深めるということです。

○斎藤委員

深めるということによろしいんですね。

はい、分かりました。

○沼田会長

斎藤委員、どうぞ。

○斎藤委員

いきなり指名、では、取っ掛かりということですね、この朝霞市の第4次の方をこう見ていく

と、すごくよいことが書かれていると思います。計画というのは、基本的には途中でコロコロと変わってしまったら、あんまりよくないだろうと思われま。ですから、私は基本的には、継続でもいいのではないかなと思うんですが、今回からこの会議に参加させていただいた立場から申しますと、もう少し、何と言いましようか、いわゆる民間的な発想で言うと、何がしたいのかということですね。

実は、私が住んでおりますのは隣の川越市というところですが、川越市は基本的には城下町ですね。ですから、城下町ということをおる程度前面に出して、いろいろ施策をするというようなことがありますし、あるいは別の都市ですと、これはもうショッピングセンターだということで、大きなイオンですとかいろいろなものを持ってきて、そこで巨大なモールをつくっていろいろなことを行うということ、あるいは大学があれば大学まちにするというようなことがありますけど、朝霞市はいったい何をするのか。第4次のいろいろなこと、これはすごくいいんですけれども、何をコアにするのかということをおる考えてもいいのではないかなという気がします。まず、取っ掛かりとして。

○沼田会長

関連でも、関連じゃなくても、御意見どうぞ。

○佐野委員

例えば第4次で出されているその将来像で、「水と緑に満ちた やすらぎと生きがいのあるまち朝霞」とあるんですけれども、その持っている意味合いとかですね、これはこの計画で、これを実現するためにどうしたらいいとか、その下に実現のための基本方針とかあるんですけれども、あるいは、そのほかに隣のページにある施策の大綱とかいろいろあつてですね、そのときにそういうのがある中で見て、将来像というのがこの計画実現でどれだけ意味合いを持つかと。あるいは、これに基づいて具体的にどういうことをやるんだというところが、第4次を見ている僕のご感覚だと、何かどこにどう反映されているのかなと、どっか神棚に祭つてあるキャッチフレーズみたいな感じがしましてですね、そういう意味合いなら何らその構わない、それはそれでそういうものだというならそうなんですけれども、何かもっと身近にその施策としてですね、実現を目指しているということが感じられるようなものに、どんな中身にするかは別にして、その実体はそうあらねばならないように思うんですよね。ですから、そういう観点でも考える必要があるかなと思います。

○田辺委員

まあ、結局「水と緑に満ちた」つていうのは、恐らく斜面林の緑と黒目川を中心とした、まちの中心部を流れる川をやはり大切にしたいという意味合いが入つているのと、あとは「やすらぎと生きがいのある」つていうのは、恐らく住宅都市という意味合いで、朝霞はほとんどやはり、外に、

東京の方に向かっていくサラリーマンの方が多いということも含めて住宅都市というようなものがこういう形で表現されているんだらうと思うんですけども。

今日、東洋大学の先生方もいらっしゃるので、東洋大学があるということで、私は本当は文教都市というのも、本当はあっていいだらうなと。やはり文化とか、まちづくりに欠かせない要素だと思うので、本当は東洋大学がまちの中心部にあるということはね、例えば隣の志木市だと慶応があるし、新座だと立教があるし、十文字ありね、跡見ありね、ということも含めて、もう少しそういうところとの連携というのがあってよかったですらうなと思うんですけども、率直なところ、東洋大学の先生なり、大東文化大学の先生もどこかでほかのまちづくりにかかわられているんだとしたらね、そこら辺をちょっと教えていただけないかなと。何か面白いアイデアでもあれば。

○沼田会長

斎藤委員、どうぞ。

○斎藤委員

いきなり振られて大変申し訳ないんですけども、私、東洋大学の前に別の大学に勤めておりまして、別に東洋大学を代表するわけではありません。理事長でも何でもなし、ただの一番下っ端の。

それで、私も朝霞の校舎に数年間勤めたことがございまして、ここで一つ、私の立場から言わせていただくとですね、人の力を頼ってはいけないということですね。東洋大学があるから東洋大学、大東文化大があるから大東文化大、十文字があるから十文字と言ったって、東洋大学の経営者は東京に住んでいてですね、その経営者の考えで、じゃあ人員削減しましょうとか学部を移しましょうとか、こっちやめてあっちにつくりましょう、そんなことに振り回されたら、立派なこの朝霞市はどうなるんだらうと。

だから、そんな人の力を頼らないで、もし提案させていただくならば、朝霞市で朝霞市立大学をつくってしまえばいいじゃないかと。それだけの力が、このまちにはあると思います。

とりあえず、そういうことです。

○村上委員

何かこれはすごく理想的な歌のような感じがするんですけども、もっと具体的に皆さんが住んでいるに対して、「ああ、ここ朝霞はいいな。」というものを目指さないといけないと思うんですね。例えば今あそこの、私は柴町の4丁目に住んでいるんですけども、あそこの旧道のところですね、歩道がすごく狭くて、小学生がお帰りになるときと自転車の人とがもうぐちゃぐちゃで、すごく危ないんですね。だから、いっそ土地を広げるわけにはいかないの、例えば10年計画でも、ちょっとお金はかかりますけども電信柱を地下に埋めるとか、もっとさわやかな土地にするとか、もっと具体的にみんなが直接感じられるようなことを進めていただきたいなと思います。

○百武委員

こういう計画のときに、最初に将来像について考えて、その後具体的にというのが多いと思うんですけども、多分皆さんの中で今おっしゃられたような、具体的な「じゃあ、ここはこうしていこう。」というのがだんだん見えてきて初めて、「じゃあ将来像としては、ここに力点を置いていこう。」ということがもうちょっと具体的にイメージできると思います。その水とか緑という抽象的な言葉の中にも込められるイメージが、もうちょっと付いてくるのではないかと思いますので、この文言をまだ変えられるというタイミングであるのであれば、もうちょっと見えてからこういうことを検討してもいいのかなというふうに思います。

○沼田会長

事務局の方、今まで聴いて何かありますか。

○事務局・田中審議監

ここで将来像と言いますか、朝霞の第5次の将来ビジョンという形で具体的に決定してしまおうという話ではなくて、一つには方向性として、第4次が先ほど田辺委員からもお話があったような、この朝霞の将来像として出して、第4次で掲げていたものが、ある意味では貴重な残された自然環境とかですね、そういったものを保全、守りながら、しかも人がここに住んでいるわけですから、市民が暮らしやすいまちづくりということを、あえて言えば両立させたいということがコンセプトとしてはあったと思うんですね。

今日、御議論いただければいいのは、だんだん具体的にはなってくるわけで、ただ今後、逆に言いますと、基本計画という段階で市の各セクションが具体的に計画を立てていくときに、この目指すべき到達点みたいなところがイメージとしてある程度あった方が、どこに力点を置いた施策というものを展開したらいいのかですとか、そういう議論の時に役立つのではないかと思います。具体的な基本計画ができればまた相互に連動し合うものなので、修正を加えていけばいいかなとも思っています。

基本路線として、第4次の計画で掲げているこういう方向性といったものをベースとして維持していくか、そこに何かを付け加えることは今後あるかもしれないけれども、ベースとして維持していくという方向性が今日もし確認できれば、これを各セクションに伝えて、基本的に第4次が目指していく将来イメージというものを継続していきたいということをベースにして、各施策というものをもう一度見直して下さいという指示をしたいというこちらの身勝手なことなんですけれども、そういう思いが実はございました。

ですので、具体的にここで今日、将来像、将来ビジョンを具体的に決定してしまうということではなくて、いろいろな御意見をいただければ、何かここで漏れているもの、先ほど田辺委員から教

育だとか、文教都市としての位置付けとかそういったところの必要性だとか、そういう御指摘が各委員から御意見としていただければ、我々はそれをまとめていく立場にあるので、すごく有り難いと思います。

○沼田会長

将来像と個別の施策というのは、多分こういう計画の審議の時には、何往復かするんだろうと思いますね。だから、帰納法と演繹法を何回も使い分けるようなことの、その1回目が今、将来像をまず審議しようというところから来ているので、ちょっと戸惑いがありますけれども、この次、今度逆側からという話も恐らく、何往復かすると思いますので、まあ今日は、これで1回いいかという感じはしています。

ちょっと話題提供で、私、御縁があって第5次の審議に参加させていただいていますけれども、練馬区に住んでいて、初めて去年ですかね、このまちへ伺って、印象としてはここに書いてある第4次の将来像ですね、「水と緑に満ちた やすらぎと生きがいのあるまち」っていうのは、来たときに感じました。で、今でも感じています。だから、ひょっとしたらですけども、これ、暴論だと言われるとそうかもしれませんが、もうこの将来像は既に実現しかかっているのではないかという感じがしていて、その意味では第4次はまあ及第点と言うんですかね、成功だったなというふうに思っているんですね。

ワールドカフェの、こないだの意見の集約なんかを読んでも、そういう意見が結構ありますよね。それから市民の意識調査アンケートでも結構そういうのが見えているので、これを愚直にといいのかな、単純に第5次にスライドさせるというよりは、これを維持は維持でいいかもしれませんが、方向性を何か付け加えたり、あるいは異質なものをなんか入れるとかいう、文教都市もいいアイデアだと思いますけれども、そういうような、何かそういう知恵が第5次でつくればいかなというふうに、個人的には思っております。

で、これで議論を誘導しようとは思っておりませんが、個人の意見として、そう思っております。

○中村委員

「水と緑に満ちた やすらぎと生きがいのあるまち」は、非常にイメージしやすいという気はします。でも、かなり抽象的です。抽象的な方がよいという意見もあるでしょうし、先ほど斎藤委員や田辺委員から出たように、例えばこの先10年の計画なので、「文化学園都市を目指します」などとすると、市民はもっとイメージしやすいのではないかと。どちらを取るかです。私としては抽象的なキャッチフレーズよりは、できれば「文化学園都市」、「環境都市」など、もう少し市民がイメージしやすいキャッチフレーズやキャッチコピーにしたらいと思っています。

特に、現在もっとも関心を持っているのは、この隣にある広大な緑地です。この緑地を将来朝霞市あるいは朝霞市民はどのように考えているのだろうか。確かに緑地として残していくというのは市民誰もが望んでいることだとは思いますが、この緑を生かしながら何か活用する方策は考えられないのか。例えば東洋大学の2学部ぐらいをここに誘致できないか。これは少し暴論かもしれませんが、このような構想もあり得るのではないかと。

将来推計人口を136,000人強と想定しています。前回も少し多くはないか、あるいはそこまで届くのかという議論がありました。日本は人口減少社会に入っていますので、確かにそのような議論もあり得るでしょう。そこで、商店街等の活性化を考えたとき、市内の交流人口をもっと増やす方策を考えてもよいのではないかと。そのように考えたとき、先ほどの市立大学とか、他の大学を誘致するというのもあながち暴論ではなく、検討に値する事項ではないかと思えます。

○大石委員

ちょっとこの将来像についての焦点がぼけるかも分かりませんが、行政の継続性というものがありますから、10年前策定された今の第4次総合振興計画の、何と申すんでしょう、総括と言いますか、Plan、Do、Checkの、Cの段階にね、あと2年残っていますけれどね、中にはそういう総括ができない部分があるかと思うんです。

例えばこの中の議員さんなり職員さんの方で、10年前の第4次からこういうもの携わっている方は何人ぐらいいらっしゃいますか。3人くらいですか。ほかにもいらっしゃいますが、この委員会では3人ということですが、4人ですか、4人ということですか。

4次のもあと2年残っていますから、大体の総括と言いますか評価がもう大分出揃っているところじゃなかろうかと思えます。その総括を踏まえて、第5次の中で継続していかないといけないもの、あるいはもう達成されたものとかいろいろあろうかと思うんです。その中で、第5次の将来像というのをどういうふうに持っていくかという、第4次に結構いいこと書いてありますから、私は、これは悪いことは書いていないですから、いいことですから、そんなに100パーセントみんなが達成されたと思っていないんですよ。だから継続してやることも必要でしょう。

それから一つ気になるのは、朝霞市は人口の問題で若い方が多いという評価が表にも出ていたけれど、これはこの次の会議のテーマであろうかと思えますけれども、この文言の中に、例えば「若い人が住みやすいようなまち」というようなことも入れた方がいいのではというふうな気はいたします。

○鈴木副会長

今、大石委員から、この中でどれくらいの人に関わっていたのかなという御意見をいただきましたけれど、4人の中の私も一人でございます、その中でですね、この「水と緑に満ちた やすら

ぎと生きがいのあるまち 朝霞」ということですね、先ほど意見としてもう出ていますが、朝霞市では斜面林の確保、特別緑地地区の指定ですね、緑を残そうと。そして水辺という形で、県と一緒に黒目川の再生、それから代替え山の確保、あるいは田島公園ですね、そういうものを確保されたりですね。生きがいのあるまちという形で住宅都市というような考えの中からですね、長年にわたって埼玉県独特の指定方法だったのですが、市街地を暫定調整区域という形で住宅も建てられなくしてあったところを、2年前に再度市街化に逆線引きをしないか地区計画を決定して、それができてたった1年目に240棟からの建物もできたと。生産緑地にしておきましたので、新たにできる場所というのはちゃんと整備された、一角が30坪以上なんですね。びっしりしたきれいな住宅地が増えてきているという中で、そういうことも総合振興計画の中で一応確保されてきているかなと。

ちょっとイメージ的にはですね、佐野委員が言われたように、神棚に上げていくようなですね、抽象的なものでありましたけれども、こじ付けと言われるかも分かりませんが、少しずつ朝霞市がよくなってきたなど。今度、それこそ市民アンケートだとかこの間のいろいろ市民の声を聴いた中で、「安全、安心のまちづくり」ということがアンケートでも第1番になってきております。こういうことが、この抽象的なところに少し具体的なものを今後皆さんと御意見交わしながら入れられたらいいなと思っております。

○田辺委員

度々申し訳ないです。

ちょっと皆さんに注意をというか、喚起したいなというふうに思うのは、環境の問題と絡みますし、多分この前の段階でも人口推計の話はされていると思うんですけど、本当はこういうまちづくりの計画の一番基本は、人口の問題だと本当は思うんですね。これから人を増やすのか増やさないのか、増やすんだったらどこに増やしていくということまで本当は考えるべきだと思うんですけど。

先ほど副会長がおっしゃったように、今、暫定調整区域から市街化区域に編入された部分が更に広くあるというのはあるんですけど、それ以外に市街化区域がかなり占めている。河川敷が主ですけど、黒目川周辺と新河岸川、荒川周辺の河川の低地の部分が市街化調整区域なわけですけど、そこがかなり開発がいろんな形で進められていると。これに関しては、例えば内間木地域は産業廃棄物の問題でも以前、公害の問題でもまだこれが改善されているとは言えない状況はあります。ですから、環境の問題と言ったときには公害の問題だとか、あとは開発、例えば内間木と浜崎辺りで墓地の建設計画が今、かなり規模の大きな墓地がつくられるとか。あとは物流の倉庫はどんどんやっぱり増えてきているとか。市街化調整区域ですから、本当は開発できないという前提だったん

ですけど、逆に何も規制がなくて案外そういうものがどんどんできていると。それを今、景観法などが出てきて、そこで何か歯止めにならないかというアイデアはないことはないんですけど、なかなか景観だけでそれを抑えるというのは難しいという現実がある中で。一つ今の世の中の情勢としては、先ほどもちょっと出ていたと思うんですけど、例えば電柱の地中化なんて話も景観に絡んでくると思うんです。やっぱり一つ見るべきであるし、あとは人口を増やすのか増やさないのかとか、その内間木の地域に限らずね、開発が進められていく、今254バイパスの周辺が一番、これからの朝霞の今後の都市計画マスタープランでもそうですけれども、どうするのかというのが非常に、あまり表立っては議会では議論されてませんけれども、積水が撤退するとそこに何かショッピングモールのようなものができる可能性があるとかね、富士見の方にはららぽーとができるというね。朝霞の場合ですと完全に調整区域のところ、積水の跡地ということになるとそこは工業地域なんですね。工業地域だと何でもできちゃうんですよ、逆に規制が緩いので。ショッピングモールとかつくるのは簡単にできちゃう。本来はなかなかつukれない場所でも、そういうむしろ規制のないところだと簡単にできてしまうと。それを本当にそれでやったときに、どうあの周辺、あの周辺というのは九小だとか、今の積水の周辺、それから254バイパスの周辺がこれから内間木地域ということになりますけれども、田島、内間木地域がどう変わっていくのか。それを人口との関係でいったときにもね、全然、結果ここで作ったものと全く違うものが今後開発で進められる可能性があるということは是非皆さん考えておいていただきたいなと。だからそういう意味では、私は環境の部分なり景観の部分というのはファクターとしては入れたいなと考えています。

○沼田会長

今日は、基本はテーマが二つあって、それぞれフリートーキングをやりながらぼんやりと意見を集約する。それぞれについてですね、決定ではなくてぼんやり意見を集約する場なんだなと、今お話し伺ってやっと分かりました。

どうもこの1点目の論点の、第4次のコンセプトを継承するのか変えるのかという話を今していますけれども、これ、あと30分くらいで終わろうと思っていますけれども、基本はどうも継承と言うか付け加えるという人が多いように思いますけれども、継承派はいらっしゃらないのですか。このままでいいじゃないかという。

○小池委員

私は、将来像の文言については、4次の現状の文言が非常によくできているなというふうに私は感じています。それで、意見としては先ほど鈴木副会長が言っていたように全く同じだなと同感をしていましたので、やはり同じように私もちょっとこれは入れたいなと思ったのは入っているからいいよという気もするんですけど、「安心、安全のまち」ということがね、これがやっぱり

「安心、安全な居住環境」と言うんでしょうかね、これをつくっていくべきだろうと思うし、みんながそこを見ていると思うんですね。ですからそれを、この文言の中でもっと具体的に全面的にどーんと入れるか、それともファジーですけど、入っているんだからよく理解をしてくださいよというメッセージにするのかね。いずれにしても私はこの現状で、将来像の文言についてはいいんじゃないかなと思いました。

いじろうとすれば次の2番とかですよ。基本目標だとか基本方針ですかね。そういうところは、もう少し細かく議論を重ねて深めるというんでしょうかね、議論を深めた方がいいかなという気がしました。

○佐野委員

このキャッチフレーズをどうするかということではないんですけど、どんなまちになってほしいかと、あるいはどんなまちにしたいんだということではちょっと希望で、私の希望を述べさせてもらいたいと思います。

確かに、ここにキャッチコピーにあるような「水と緑」とか、そういう環境とかですね、「生活上の安全」とか「豊かな暮らし」とか、そういうのには何にも異論はありません。それとは別にですね、私の希望としては、その子育てとか子供の教育とかに力を入れてもらいたいなど、入れていきたいなというふうに思っています。

確かに人口面で見たら、今は高齢者の率が他市に比べたら低めであると。しかしながらそれも今現在の話で、だんだんとこれからやはり高齢化して、人口の数も減ってっちゃうということを考えたときにですね、やっぱり住んでいる人にとってのどういうまちかと、いいまちだということと、それから朝霞に来てちょうだいと言える魅力のあるということ。例えば人口、例えば若い子育てをしている世代に来てもらいたいというようなところをもって、すぐさま何かやっても来るわけじゃないですよ。確かに大規模な住宅の開発をやればどーんと、朝霞がどういうキャッチフレーズにしようが関係なく人は増えるんでしょうけれど、なかなかそうもならないところもあると。それから朝霞は御承知のとおり産業があるわけでもない。今から産業づくりでどんとまちづくりをするということもないし、観光とかですね、そういうところでもない。そうするとやっぱりベッドタウンとしてのまちだと。そうすると、子供がいて家庭があつてというところかなと思います。そうして考えた時にやっぱり若いお父さん、お母さんたちにとって魅力あると言いますか、そういうまちにしていきたいと考えたときに、子育てとか、あるいは子供の教育にもっともっと力を入れていくというようなことをしたらどうかと思います。そういうことに熱心であると、それが、我々住んでいる住人にとっても実感できて、あるいは外部の人にもそういうことでほかの市町村から移ってくるというのも現実には難しいのかもしれませんが、何かそういった魅力が、朝

霞ってこういう魅力があるよねと言えると。環境ももちろん大きいです。それから、交通上の利便性もですね。それに加えてそういった生活をしていく面でもそういう魅力があるということとして、子供を育てるとか、あるいは子供って小さい子ですね、乳幼児もあるし更に学校に行く子供たち、教育に力を入れていくというようなところを私は希望したいなと思います。

○野本委員

私は第4次の前期まで関わりがありました。ですので、ここでこう議論を聴くとですね、結果を評価されているというふうな感じを持ちます。そういう意味では、やはり第4次はこの将来像を掲げてどうだったのかというのは、1回どこかで確認をしておく必要があるのではないかとというのが一つあります。それから、今度は手前みそみたいなんですが、「やすらぎと生きがいのあるまち」を目指して第4次をつくったわけですが、アンケート結果等を見ますとですね、住みよさのところでは平成11年から25年までで、ずっと住み続けたいという人がほぼ2倍になっているんですね。8割の人が住み続けたい、もしくは当分住み続けたいというふうに評価してくれているという部分は、評価してもらいたいなという感じは持ちます。ただ、ということは、住み続けたい方が8割ということになると、固定化するという可能性があるなというふうに考えると、やはり個人には少し違った味付けをしないといけないのかなと。このまま継続というのはちょっと、あまり、関わってきた者としては、いやもっと違う視点を捉えていただきたいという気持ちがあります。

○安野委員

少し欲張りですけども、やっぱり小池委員と鈴木副会長の意見に同意しまして、安全安心というところも取り入れて、あと佐野委員の意見で子育てと教育を入れていきたいなと私も思っています。それとは別に、現在の将来像、「水と緑に満ちた やすらぎと生きがいのあるまち 朝霞」といったところで、「水と緑に満ちた」と「やすらぎ」は非常に分かりやすいんですけども、最後の「生きがい」、とてもいい言葉なんですけれども、じゃあ「生きがい」とは何なのかというのはちょっと分かりません。市民としての意見ですけども。それから、私は朝霞に来てもう10年たっていますけれども、このキャッチフレーズ、この審議会に関わって初めて知りました。ちょっと本日の議論の趣旨から外れますけれども、どうにかもっと一般の市民に広がるようにしていただきたいなと思っています。以上です。

○沼田会長

今のは重要な視点だと思います。事務方、何かありますか。

○事務局・田中審議監

これは、この第5次の審議会を始める時に私の方からも一つのお願いとして申し上げたように、今までの総合振興計画はどちらかというとやはり市役所内部で、それに基づいて仕事をするための

一つの計画であったということです。今回の第5次、これは朝霞市が法律に基づかないで、自前で本当につくろうという気になってつくろうとしている計画なので、これは広く市民の皆さんに御理解をいただいて、できれば、多くの方々がこのことをテーマにして一緒にまちづくりに参加していただく、そういうことの一つのスタート地点になればいいなと思っています。

そのために必要なのは、これは最初の段階で申し上げたように、いろんな御議論をしていただいた後、どういうふうに普及していくかというところの話というのを、これがまとまった段階で、例えば言葉遣いをもっと易しくして、もっと広い範囲の、要するに、例えば中学生の生徒でも分かるような、行政用語がいっぱい羅列されているような計画じゃなくて、子供たちにも分かるような計画にしたいとかですね、そういう思いは一方であります。だから、それが可能なかどうか。可能じゃなかったら、そういう普及版みたいなものをつくる必要性があるのではないかと考えていたりしますので、それは是非、その思いは共有していきたいと私も思います。ですので、それは計画全体が骨格として出来上がってきた段階で、これをどう広く市民の皆さんに普及していくか、知ってもらえるか、そしてなるべくだったらそれを自分たちのこととして捉えてもらえるか、その辺の仕事をどういうふうにやっていくかということを考える余裕が実は欲しいなと思っております。

○安野委員

よろしくをお願いします。

○鈴木（泰）委員

私は、ずっと朝霞の流れを見ていて思うんですけれども、やはり、いろんな面でまず10年はかかるっていうこと。例えば、水が非常にきれいになってきたということ、これも黒目川にしても以前は非常に上から見ても汚れている状態だったんですけれども、今、アユが来るような本当に、ここから、朝霞に住んでいる人が他県の親戚に、この前宅急便のところで偶然目にしたんですけれども、アユを送るんだという光景を見て、ここまで朝霞の水も、それから水がきれいになるということとは緑が非常に豊かっていることだと思うんです。それと同時に朝霞の水ということではいろんな所に販売されていたり、そして送られたりとか目にしますけれども、そういうものにしても10年はまずかかっているわけですね。先ほどから、東洋大学とか大東文大学のお力を借りてという話も出ておりますけれども、確かに日頃の学校への授業の中でお力をお借りして、大学生に子供たちへの授業をしていただくと、非常に子供たちも喜ぶし、自分とほとんど余り年齢が変わらない先生に来ていただいて、生き生きした授業をやっていただくと、逆に現役の若い先生方は、自分のこういう面を気をつければいいのかとか、そういうことも気付かされる部分もあったりとかするんですね。そういうことで東洋大学もそうですけれども、新座にあります十文字とか跡見とか来ていたりしてしておりますけれども、そういう面で非常に子供たちも現役の先生も大学生も、これから自

分の職に就くに当たってのずいぶんプラスになっているんじゃないかなということを感じておりまして、そういう中からもあるかもしれませんが、朝霞市の中学生といったらまず、いろんな会へ行った時に声をかけられるんですが、まず、音楽と陸上、スポーツということで声をかけられるんです。だから、ここまでになってきているということは、1年、2年でできるわけじゃなくて、東洋大の若い学生さんのお力をいただいたりして、そしてどういうふうにするということを市民体育祭の時なんかにも模範を示していただいたり、日頃の部活の中でお力を借りたりとか、そういう中で非常にお互いに、東洋大にしたら場所も借りながら、生徒の指導をしながら、そういう中で自分も発見したりとかしていると思うんです。だから、これも10年だなという、今しきりに音楽にしても全国コンクールで優勝したりとか、そんな形になってますけれども、先日、つい先日ですけど1月、あ、そう、この前の2月7日の審議会の時ですけど、小中一貫校の足立区の見学に行ったんですけども、そこで小中一貫を始め、ちょうど10年前からそれを計画して初めて、そして今どうやら軌道に乗ってきたところだということですけども、そのことによって、すぐ目の前に大きなマンションがどんと出たことによって生徒が倍に増えたとか、そして住民が非常に増えてきたということ、そういう、今、住民の増える話をされてますけれども、若い方が増えているわけですけど、これも10年だなということ。じゃあ振り返って朝霞はといったとき、1月にやはりあったんですけど、小学校、中学校、高校は朝霞高校とそれから西校と、こうぐるっと回って見せていただいたなかで感じたことは、非常にいい位置にあって学園都市ができる位置でもあるし、そして高校の先生にしても夕方部活をする生徒が朝早く来て、先生が出て来るのを待って先生を捕まえて自分の疑問点を先生に聴いている。だから、朝早く来た先生はもう大変なんですよ、捕まっちゃって。自分が身支度する暇もないぐらいなんですよなんて先生の話も伺いまして、非常に今ずっと皆さんのお話を聴いている中で本当に文教都市にも当然向かって行かれますし、あとは皆さんの後押しと予算かなというふうなことを考えますけれども、とにかくまあ10年、もちろん小中の検討は始まっていて、進んでいるわけですけども、是非、こういう場をお借りして皆さんの後押し等をお願いしたいと思います。よろしくお願いたします。

○沼田会長

ありがとうございます。そのほか、何かございますか。

○斎藤委員

今日は議論ということですね、好きなことを言うということなので、例えばこの第4次の方ですね、この後期計画の方の13ページを見ますと、ここにカラーで将来都市構造図というのが出ておりますね。これは僕も、委員の方の御専門なんでしょうけれども、私もヨーロッパにちょっと住んでいたり、あちらこちらに住んでいた結果ですね、もう人間というのはまず空間という問題

ですね、それが非常に重要であるということ。空間という問題を具体的に、例えば今言いますと、前回の会議で出たアンケートの中の生活環境の良い点とか悪い点というところがございましてですね、これによって評価している人たちというのは、とにかく自分が住んでいる所を中心として便利であるか便利でないか、ショッピングはできるか、交通の便がいいかというところを見ているわけですね。不満な点として出している人たちは、そういうところから自分が遠い所に住んでいるというところが如実に表れているわけですね。ということは、人間というのはまず空間という問題をですね、まず第1にあるわけです。その空間という問題と同時に今度はそこが住みよくなれば、次にもうちょっと広く、じゃあ教育をどうするかとかですね、あるいはほかのことをどうするかということに意識が移っていくということになります。そのように考えますと、例えばこの第4次の方ですね、先ほど安野委員がおっしゃったようなこの「生きがい」という言葉の意味が分からない。実は、正直言って私もそういうふう感じておりました。「水と緑」にしたというのは、この先ほどの第4次計画の13ページを見れば、右上の方の緑地それから川がきれいになるということで、これはよい。「安らぎ」はもちろんあるだろう。「生きがい」というよりも、私はむしろ生きがいは人それぞれ違いますから、ゲートボールが生きがいという人もいればカラオケという人もいればですね、ですからむしろ「生活環境」というものを入れて、そうしますとこの第4次の計画におきましてもまだやり残したこともあるのではないかとこのように考えます。それがまず起草としてあって、基本としてあって、その上に先ほどの田辺委員がおっしゃったような文教を往々にするかとかですね、そういう問題が出てくるのではないかと思います。したがって、将来像といたしましては、この二つを含んだような、どちらか一方ではなくて、二つを含んだような表現にしなければいけないのではないかと考えております。

○鈴木副会長

私ですか。前、携わっていますので、古いことをいつまでも固執してるなよ、なんて言われるか分からないんですけど、具体的に、先ほどからもいろいろ、佐野委員から出た子供さんの住みやすい、については朝霞市の場合ですね、最近はもう若い人たちも朝霞に住みたい、そして保育園等も充実しているということですね、なかなか若い人が住みやすくなってきているまちになっているのかなと、そんなことも感じますね。たくさん意見があるわけですけど、今、文教都市あるいは生活環境、そして住宅都市という部分があります。大きく今朝霞が変わろうとしているところが、先ほど田辺委員からも言われましたけれども、朝霞の積水、ここが今、工業の拠点、地域と、都市計画では朝霞市に三つあるんですが、そうになっています。そこが完全に撤退した場合に、工業が来られるのかどうかということがあるわけですね。それから、その先に調整区域につながってですね、積水さんが全部材料置場やなんかになっています。そこをまぜると、積水の工場の倍ぐらいの

面積になるんですよね。それをそれじゃあ市が経済的に収入を上げなくちゃいけないから、誘致をして、工場地帯へと今度は逆に拡大した場合にどうなのか。ただ、残念ながら朝霞の場合は、土地が高いんですよね。だから、工場誘致しても工場は来てくれないだろうということで、非常に難しい、将来像を考えたときにですね。ですから、どっちかという、住宅地域みたいになっていっちゃうのかなと。その工場の拠点というのを今、場合によったらなくさなくてはいけないのかなというのが今の朝霞の課題です。

それから、内間木方面の254バイパスがですね、あと10年もすると完全に開通するわけですけど、そうした場合にあれだけの大きな沿道をですね、調整区域のままですと今許可が下りる流通業だとかですね、沿道サービス業、あるいは先ほどから出ているお墓、今お墓が朝霞では3か所もつくりたいという書類が上がってきています。これを阻止することができないんですね。ですから、そういうものですね、総合振興計画で止めるということもこれはできないと思いますけど、多くの方々がですね、この委員の皆さんの中からこういうまちにしていきたいというものが明確に出てくることによって、いくらか抑える方向の条例みたいなものをつくる。ただ、条例ですと、もう裁判やると負けちゃうんですよね。それで、法律どおりのものができちゃうんです。だから、法律、国の方を変えなくちゃいけないんですけど、朝霞市でそこまでいきません。ですから、私自身は今、そういう工場の拠点の部分、あるいはバイパスの部分を考えてときにですね、具体的にこうした方がいいだろう、ああしたらいいだろうという意見がなかなか出せないんです。そんな関係で、4次の中からですね、「生きがい」というところ、これを今度は各項目の中でいろいろ具体的なものをいれていってですね、ここには環境とか安全、安心などに直す程度かなというふうに感じています。

○沼田会長

ありがとうございました。

あと10分ぐらいで終わりたいと思っていますけれども、御発言のない方、何か御意見ございますか。

○大橋委員

この将来像というのがですね、大変朝霞の今の教育の学校の理念に似ている、どっちが早いのか、卵か鶏かの問題かなとは思っているんですけど、大変似ている文言が付いているわけなんですね。それで、今私が言いたい、手を挙げた理由はその「生きがい」を変えるという部分は、これは非常に問題だなと。「生きがい」そのものですね、私が理解しているものは好きになること、「生きがい」そのものですね、好きだということ言葉を替えて捉えていただきたい。好きになること、好きなんだと、好きな目標を持つというふうなこの「生きがい」という文言がですね、大変この将

来像の中でも重く重要な文言だと私は思っています。その点は、十分考えていただきたい。これからの部分で、第5次という部分に値してはですね、やはり朝霞のこれからの、何がどう展開してくるか、まだまだいろんな部分で私も何十年も前に朝霞に生まれ、朝霞に育っているんですけども、変わってくるか分からないんですけども、まず、今不足している部分、やはり人を育てること、教育にかけてもうちょっとやはり力点を入れてほしいまちだなど、そんなふうに思っております。じゃあどうするんだという話なんですけど、まだそこまではまとまっていませんけれども、将来像については教育に力点を置いていただきたい。それと、この「生きがい」の文言については、大変重要な文言であるというふうに私は感じております。

○高橋委員

今までの皆様の御意見を伺って、確かに子供の教育とか老人福祉、これは、将来子供の人口が少なくなってくる、あと老人の人口が多くなってくるということで、確かに重要なことだとは思いますが、将来像において、例えば意識調査、アンケートの中で、朝霞の一番いいところというのは、やはり河川敷がとても美しい、あと緑が多いといったことが挙げられておりますので、朝霞のブランド、イメージ、特色の一つには、やはり「水と緑」があるんだと思いますので、この「水と緑」については、私は教育をするにしても老人福祉をするにしても、一番基本となる生活に、やはり一番ぜいたくなものだとは思いますが、今までの総合振興計画で確かに将来像として「水と緑に満ちた」ということを置いたことは素晴らしいと思うんですけども、これからやはり開発の問題、住宅都市、住宅のあのどンドン建っている、市街化調整区域になっているという点で、今まで「水と緑」に満ちてきた、これをどうするのかということになるかと思うんです。だんだん緑が少なくなってきたというアンケート回答も多いので、次は「水と緑」をどう保全していくか、あと住宅都市、これからますます住宅建設というのは少なくはならないと思うんですね。それなので、住宅都市と共存させて「水と緑」を大切にしていくかということは、私は重要な論点だと思います。

あと、また、アンケートの中に、朝霞の森についてのアンケートが非常に多かったもので、手付かずの自然が残っていることは朝霞の一番の特色だと思うんですね。その朝霞の森を朝霞の、例えば市が買い取ってそのまま保全していただけたらなと思います。それは、子供の教育にとっても、とても重要なことだと思います。

○田辺委員

ちょっと強調させていただきたい部分で、この5点目の基本将来像ですね、それから基本目標とありますけれど、下にその実現のための基本方針ありますけれど、こういうスタイルはどこの自治体でもね、総合計画のあり方としてよくあるスタイルだけれども、必ずしもこれにこだわらなく

ていいんじゃないかなというのが私の考え、基本です。

基本目標を、場合によってはもう少し個々、いろんな個別な計画がある、その計画の中にそれぞれ基本目標の設定がされていると思うんですね。それをまず、どんなものがあるかをここに出していただいて、是非皆さんに見ていただくのも一つかなと。朝霞市が今持っている個別計画の中に全部一つ一つ、例えば環境だったら環境のその目標設定で言葉があると思うんですね。福祉だったら福祉の老人福祉計画、高齢者だったら高齢者の福祉計画の中に目標の文言が最初にあると思うんですね。それを全部一通り基本目標の部分で羅列して見ていただいて、朝霞の下から積み上げてきた計画ということになりますので、その計画ではどんなものが今まであるのかというのはちょっと見ておいた方がいいのではないのかなというふう思います。

○事務局・田中審議監

今の御指摘は、非常に貴重な御意見だと思いますので。事務局として各個別計画を整理して、皆さんの方にどういう個別計画の目標を持っているかと、その辺のコンセプトについてですね、個別のコンセプトについて分かりやすくお示しできるように次回までに用意したいと思います。

○佐野委員

最初から、今日の議論は文言をどうするかというところからスタートしているんですけど、どんなまちにしたいかというところでの、いろんなディスカッションができればいいなと非常にそう思うわけですよ。要するに、キャッチフレーズとキャッチコピーはどうするんだというところからスタートするよりは、と思います。それが1点ですね。

それともう1点、さっき教育の話ですけど、この計画を立てるにあたって今回アンケート調査をしていますね。一般の大人と子供と対象にしていますけれども、子供のアンケートを見たときに、朝霞に対する愛着とか、あるいは朝霞がいいと思う項目に関して前回よりも高い、プラスになっていると、朝霞を好意的に捉える人の数が増えていると。これってなんだろう、どうしてかなと、8年か10年前と比べると朝霞がぐっとよくなって、それを彼らが感じているんだろうかという、それもあるかもしれない。けどもう一つあるのは、もしかしたら総合学習とかいう教育の場面でいろんなことがなされていると。要するに自分たちの住んでいるまちを大切にしようとか、こんなまちだよということで子供たちに理解を深めさせるとか、あるいは大人の方々が、地域の方々が学校に行っている話をされたり勉強の手伝いをしたりとか、そういうことも結構あるんじゃないかなと。そんなことを考えたときにですね、今は開かれた学校というようなことですね、学校づくりを、市民が学校づくりの中に加わっていくということは、学校づくりをお手伝いするだけじゃなくて地域づくりにつながると。あるいは学校自身がそういうことで、地域の方々と一緒にやるということは、学校づくりだけでなく地域づくりにも更に相乗効果が出てくるというよ

うなことも含めて、かなりいろんな効果があるところかなという気がします。

○鈴木（泰）委員

ありがとうございます。

○斎藤委員

先ほどの、副会長さんのおっしゃったことが非常に重要でして、これはどうこうというわけじゃない、墓地の問題ですね。私、今、霊園詐欺の問題を抱えてて、埼玉地裁とかに行っているんですよ。お寺と色々な関係者がいたら申し訳ないですけどね。霊園詐欺はたくさん出ていて、霊園がつぶれるとお寺もつぶれて、それで税務署が来てそれをお骨と一緒に産業廃棄物に回しちゃうわけですね。本当なんですよ。そういうようなことで墓地を、霊園をたくさんつくと石屋は儲かるけどもと言ったらごめんなさいだけど、でもその後発展しないという、何かそういうことがいろいろありましてですね。墓地をつくるというのは、これはできるだけ、はっきり言えば阻止した方がいいということが第1点ですね。

第2点は、今、先生方がおっしゃったように、「生きがい」というのは好きになるとか、非常に具体的に分かりやすい。あと、今、佐野委員がおっしゃったようなことも。ということは、「生きがい」というよりも、トータルすれば「人づくりのまち」というようなコンセプトで集約されるんじゃないかなと思います。

ちょっとした意見です。

○沼田会長

最後に有意義な意見をいただいてありがとうございました。

それでは、時間がきましたのでざっくりと私個人の感想を申し上げて、次にいきたいと思えます。

4次までの総合計画、自治体の基本構想というのは、地方自治法の2条4項に書かれていて、国の法律で義務付けられていたんですね。だから、自治体の看板を背負っている以上つくらざるを得ないという状況でつくっていたわけです。したがって、どうしても役所中心の、役所主導の計画にならざるを得ないところがあったというふうに思います。これが平成23年にこの義務付けが解かれましてですね、要するにつくってもつくらなくてもいいという、勝手にしなさいよということになって、今、5次の審議が始まっています。それで、義務付けが解かれてもこの朝霞市はつくるといって今この審議会をやっていますので、基本的には、簡単に言うと役所の計画から市民の計画に変わる必要が、性格的に基本的にもうすでに変わっているわけですね。そういう変わったんだということがこの将来像のイメージで分かるようなものに、本当はした方が私どもの審議会としても、あるいは市民に対する受けとしても、内容を市民に徹底するという意味でも、明らかにこれは

変わったんだなというのが分かるようなイメージというんですかね。言葉を変える必要があるかどうか、また用語の話では今日はないのですけれど、性格付けが変わったんだということですね。だから第4次までの理念はもちろん継承しますが、これをこのままというわけには多分いかないだろうなど。何かプラスアルファ、市民の計画なんだというイメージをやっぱり徹底する必要があるというふうに、私個人は、皆さんの意見を聴いて思いました。

○事務局・田中審議監

ありがとうございました。

今日の御議論については、今、会長がまとめていただいた線で各所管の部会の方にちゃんと伝達をして、そういう考え方に基づいて第4次をちゃんと整理して点検しなさいということと、それから第5次に向けて具体的にどういう仕事を今後展開していく必要があるのかというのを真剣に考えてほしいと、そういう指示を出したいと思います。

○沼田会長

では、続きまして、二つ目の論点ですね、

構成案。大枠のうんぬんという、5-1のところの3ページと4ページも関連すると思いますけれど。大綱、施策の大綱というところについてたたき台も用意してありますので、これを市役所の仕事をどういうふうに分類、ジャンル分けするかという、簡単に言うとそういうお話だと思いますけれど、これについて何か質問、御意見、フリートキングをしていただきたいと思います。

○小池委員

私は、先ほどのところで言うべきかここで言うべきか、結果的にはここで言うべきだろうと思って今提言させていただきます。

「将来像実現のための施策の大綱」の中の(1)「自然と調和したゆとりある都市づくり」というところの一番上、「土地利用」というのがあるんですけど、これは先ほどの議論の中で田辺委員や鈴木副会長からお話が出ていましたけれど、朝霞には市街化調整区域がありますよね。隣の和光市も新座市も一部あるというふうに認識しているんですが。この大都市の周辺の自治体で調整区域を持っているというのは、非常に珍しい。いろんな法律をくぐれば工場とか沿道サービスの建物ができてしまうというようなことで、一般市民の目から見ると、無秩序に開発されているんじゃないかというようなギャップがあるような変な状況が今あるなという中でですね、やはり将来、これは10年スパンではちょっと難しい、もっと長い期間が必要だと思うんですが。今あるこの調整区域を外して工業誘致をすとかしていかないとですね、将来人口が136,000人という数字が出ていますけれど、この中身として、子供が少ない、高齢者が多い、特に金のかかる高齢者が多い、財政が、自主財源が毎年減少している、これじゃあいつか行き詰ってしまうわけですね。ですからそ

れを、やはり長いスパンで解消していくためには、やはり住宅なり工場なり人口増なりを図っていかなければ、私はならないんじゃないかなと。そういう意味で、今まで朝霞においては調整区域があったことがかえてラッキーなんじゃないかなと。これは、やっぱり秩序ある開発ができるようにですね、早く調整区域を外して秩序ある開発に持っていく、そして全般的には自主財源を増やす手立てを考えていく。こういうことが将来10年、20年、50年、長いスパンで必要になってくるだろうと私は思うんですね。そのための次の10年で何かをするべきじゃないかなと、そんなふうに考えてます。

○田辺委員

これは、どの程度皆さんがこの第4次計画の大綱とたたき台の違いを、説明はされているのかもしれないんですけども。

私は、市の方でつくられたたたき台、4ページですね、1項目目が危機管理室に対応させて、つまりこのたたき台の方というのは市の役所の、今ある今後4月から始まるその役所の体制に合わせた計画に変えるということだと思うんですね。今までの計画というのはどっちかと言うとそれこそこの場所で作ったものを、逆に市の役所の庁舎で言うとどこのセクションが担当するかというので非常に煩雑だったものを、市のセクションに合わせた計画に、たたき台として出されているんだらうと思うんですね。

それが果たしてどうなのかと言ったときに、1点目の先ほど「安全・安心なまち」という話で皆さん強調されている部分はあるんだけど、ただ私はこの4ページ目の大きな大項目のIとして、危機管理室だけの「安全・安心な暮らしを支えるまち」というのが一つだけというのはどうかなと思うんですね。これは、前のページの3ページの部分でいくと、それってどこにあるのかと言うと「安全で快適な生活環境づくり」、(2)の項目の中の「防災・消防・救急」のところなんですね。これがもう特化して、大項目のIにされるということなんですね。これは、私はそれはそれとしていいとしても、3ページの(5)の「産業育成」、「産業活性化」、「中小企業・勤労者支援」と、この産業振興の部分ですけど、本当はこれはすごく重要なんですけど、なかなか具体的に市のやることというのは補助金だとかに非常に限られてきている。でも、「住宅都市」とか「文教都市」だとか「住みやすいまち」と言ったときに、やはりその地域に生活をするといったときには、やはり消費するための店舗、お店だとか、車じゃないと買えないモールも便利かもしれませんけれども、必ずしもそうじゃなくて身近なところに商店があって、朝霞のまちの中でいわゆる経済が回るような仕組みというのが本当は必要なわけですね。今どっちかと言うと住宅都市で、外で働いてきて金をこっちに持ってきているという、そういう今の朝霞の、そのいわゆる住宅都市になっているけど、果たしてそれでいいのかということもあるので。私は産業振興の部分、もう少し産業振興

という言葉だけではないですけど、もっと自分らの生活に引きつけた形のを、それはそれとしてちゃんと入れていく、生かしていくべきだと。それがたたき台の方にはⅣの「やすらぎと潤いがあふれる環境と共生するまち」の中の、(13)「地域経済の振興と雇用を支えるまち」という、その中に全部押し込められているんですね。だから大きく違っているのはどこかという、その産業振興の部分が特化していたのがⅣの(13)に今度は小さく縮小化されて、逆に今度はもともと小さな1項目、(2)の最初の項目、「防災・消防・救急」だったものが、第1項目のたたき台の方では第1項目の危機管理室が担う「安心・安全な暮らしを支えるまち」になっている。これは非常に大きな違いで、あとは福祉だとか教育とかね、環境。あるいは特に市が行ってきた、都市建設絡みの部分に関してはそんなに差異はないんじゃないのかなと。それから、最後の基本構想の実現に向けてというのも同じようなスタイルだろうと思うんですね。それから、ここの部分を皆さんよくよく見ていただいて、これは役所の側のつくったたたき台ということで先ほど会長がおっしゃった、市民の側が今回つくるというスタンスでいったときにどうなのかなというのも含めて、皆さん是非考えていただきたい。

○百武委員

今の田辺委員の御意見とも重なる部分があると思うんですけど、「安全と安心」については市民の方の認識というか、関心も非常に高いので特段したというのはいいと思うんですけど、この皆さんが考えている「安全と安心」といったときに、必ずしも「防災と消防」だけじゃなくて、道が歩けないとかそういうことの方が実はあるんです。それは防災上も問題があると思うんですけど。そうすると、イメージしているのは、交通基盤の整ったまちだとか、そういったところも関係してくるところだと思うんですね。「安全・安心」と言ったときに今までの、それこそ今の役所の体制に合わせてというよりも、その言葉でイメージするものにちゃんと集約してあげる方が分かりやすいですし、もしそういうところが部署が違うのであれば、なおさら一緒にコラボレーションしないと解決できない問題ですので、あえてやっぱりそういうふうな「安全・安心」にせよ、先ほど言われた活力という問題で考えると、Ⅴの「活力と調和による住みよいまち」の方に近いのかもしれないですし、あまりその今の体制に限らずに、その言葉から皆さんが抱いているニーズだとか、そういったものに合わせたものに組み替えた方がいいのではないかなというふうに思います。

○田辺委員

つまり市役所の体制を4月からまた新たな体制に変えるといったときに、「安全・安心」の部分の防災、消防と防犯があったんですけど、防犯はこのたたき台の方で言うとⅣの(11)「市民生活を支える安心なまち」に移っているんですよ。だから、これは完全に市の役所の体制に合わせた形のものにたたき台としては直しているということなんでね。そこをやっぱり本当にそれでいいのか

どうかということになるので、確かに「安心・安全」という言葉は皆さんいろんな形で、特に交通の問題を考えたときには道路づくり全部、まちづくり全部関わってくるはずなんですけれど、ですから、役所の希望としては恐らく総合計画と実施計画と全部連動させたいというのがあって、煩雑な作業はなるべく避けたいというのは多分あると思うんですね。そこら辺をどう調整するかというのがまず必要だと。

○事務局・田中審議監

たたき台ですので、たたいていただくということなんですけど。先ほど当初説明したように、たたき台はおっしゃるとおり市の新しい機構に合わせて分類化した、とりあえずそういう形でつくってみたというということだけの話で、これに我々は固執するつもりはありません。それよりは、逆に言うと市民の目線で分かりやすい施策体系の方がより望ましいという観点では是非御議論いただきたいと思います。

○野本委員

5次計画のたたき台を見ていく中でですね、防災に一時関わった者からするとですね、根本的にはまちづくりをしておかないとですね、防災対策って後付けなんですよ。まちがもう出来上がって、じゃあ防災なのか消防なのかでは遅いので。やはり基本的にはその前に入れておくべきこと、「安心・安全」にはそこがまず入ってくるんじゃないかと。まちはどうするのかと。

それから、そこには実は福祉的なまちづくりはどうするのかとか、そういう部分も当然加味していくことが必要なので、現状の組織から当てはめるのではなくて、逆にまちづくりの中に道路1本つくるにしても防災上はどうなのか、福祉上はどうなのか、学校の通学、教育上はどうなのかというふうな、そういうアプローチの仕方もあるんじゃないかという感じを持ちます。ですので、あまりこの組織にこだわってしまっただけで分類してしまうとちょっと無理が出るのかなという感じは持ちました。

○斎藤委員

私の方は、行政の方はよく分からないので実務的に進めるにはこういう分類も可能かなという気がするんですけど。

ただ委員として見ますと、この前回出たいろんなアンケートがございますね。要はこの会議もそうですし、市役所の行うことも、使い古された言い方ですけど市民へのサービスというように考えるならば、市民が欲することを優先的にやるというのが一般的だろうと。民間だとそうですよね。お客さんが欲することをやりますということです。そうしますとこの分類、先ほどたたき台だからっておっしゃってくださったんで安心して言えますけれど、この分類は、このアンケートで出た市民の欲するものをカテゴリー化して分類していった方がいいんじゃないかなというように考え

ます。そして、その中でいわゆるハードの面ですね、先ほど先生方がおっしゃったその空間をどうやって整備していくかという、歩道をどうするかとか、どこに避難施設を設けるかとか、消防はどうだというそういうようなハードの面と、あとはそれをつなげる、そこに入れるようなソフトの面ですね。これは、ソフトというのは、例えば学校の、先ほどからの鈴木委員がおっしゃっているような学校教育、幼稚園から大学まで一応あるわけですから、それをどうやって中身として組み合わせるかというようなこと。ハードとソフトの面に通常分けて市民の要望に従ったカテゴリーをしていくという形で、そういう意味ではもうちょっと大ざっぱでいいのかなっていう、たたき台もですね、カテゴリーも。VIの中で一遍に22に細かく分けているから個別に出てくるんですね。もうちょっと大ざっぱに分けた方がいいかなという気がします。

○鈴木（泰）委員

フリートークということなので、言わせていただきますけれど。

里山と申しますか、緑を非常に残す大事さは日頃生活していて分かる部分でもありますけれど、逆に、例えば、とうもろこし畑があってその横に子供の通学路があって、たまたま一人で帰った小学校の高学年の子がちょっと変わった男性の方に、雨の日で一緒に傘に入ってもいいとかいう感じで、何事もなかったからいいけど、非常に畑を大事にしたい緑を大事にしたいというのと、それから通学路の部分の住宅がないところの危険というか、お互い命にかかわる問題でもあり、そういうところってどういうふうにやったらいいかなってことを日頃感じております。とにかく緑の大事さ、それは分かりますし、だからそういうのは何とかお知恵をいただくといいなということを感じます。

フリートークなのでそんなことを話させていただきます。

○大石委員

このたたき台に関係するのかどうかよく分かりませんが、全般的に、基本的な話としましてですね、例えば緑の問題と都市計画の問題は、計画的には相反するものだと思うんです。

朝霞市に45パーセントの調整区域がありますよね。これを撤廃しちゃったら緑を残すということとはできないと思うんですよね。そういう整合性をどうするのか。

それから136,000人の、これは推定の人口推定ですけど、朝霞市が大体どれくらいの人口で突進するのかということが、基本的に都市計画に関連したり、じゃあその中で、例えば調整区域は議会の方では毎年見直しになさっているんでしょうか。何年かに1回なされるんでしょうか。この辺のところはですね、基本的にどういうまちづくりになるのか、それから緑がどれくらい残るのか、人口がどれくらいに推移するのとかかね。その辺に、ちょっと基本的に私は絡んでくるんじゃないかというふうに思うんですけどね。この辺はいかがでしょうかね。

○田辺委員

鈴木副会長のほうが御存じだけど、調整区域だとかいわゆる区域区分っていう形ですけど、それは都市計画審議会で決めていくので、それも10年とかかなり大きなスパンで、特に区域区分に関してはそんな簡単には変わらないものですからほぼ今のままでいくだろうと、それも今回変えたばかり、もうちょうど今変えるところですから、そんなにすぐには変わらないと思います。

○鈴木副会長

都市計画はですね、県の方で決定するんですね。それで市の意見を聴いて県が決めていくと。そして国の賛同を受けてということですね。そんな関係で今、田辺委員が言われたようにですね、今、整開保、埼玉県全部の都市計画を見直す時期で、今月朝霞市としての意見を県の方に提出しました。都市計画審議会で議論したことをですね。それで、ほとんど県からきたとおりの形で出しています。特に朝霞で、特別にどうしてくれこうしてくれというのはなくてですね、積水のところだけ工場を、工場は拠点地域というのが、もし積水が来年の3月31日にですね、ほかのものになっていくと言った場合にこれを変更させていただきたいという意見書だけを出してですね、それ以外は従来どおりです。あと、朝霞市の都市計画審議会では2年前に暫定調整区域を市街化にし、あと市街化にしたことによって緑が急になくならないようにですね、生産緑地という制度がありまして、地主さんから届出をどんどんしていただいでですね、生産緑地として畑として残していただく。それを指定しますと30年間、農業を続けていただく。どうしても相続だとか体を壊してできなくなった場合には、また再度廃止の許可申請というのが出てきますけれど。ですから、ほかの地域が市街化にした場合ですね、内間木地区、あるいは田島、溝沼田んぼですね、あの辺が、それから根岸田んぼ、この辺を生産緑地にした場合、市街化にもしめるようなことがあればですね、また生産緑地制度等を取り入れてやっていきますから、かえって今の市街化調整区域のままですと汚い材料置場だとかですね、それから国でいいよという法律の、とても朝霞市民としてはやるようなことではないようなことばかりがどんどん開発されてしまうという意味で、もう少し市民の手でまちづくりができるような方がいいんじゃないかという声は、最近非常に高まっているということです。

○大石委員

県の指図どおりと言ったら大変言い方が乱暴かも知れませんが、そのとおりに市街化を進めていくんだというような御説明で今あったんですが、朝霞市が自分たちの手で計画をつくってやっていこうという観点から考えると、何かやたらと受け身のような感じで主体性がないような感じに受けるんですけど、そんなものなんですか。

○鈴木副会長

今回の改正は従来とほとんど変わらないと。それで一番最初につくったときはどうなんだというときは、これは確かに県の方と、もちろん朝霞市もいろいろ意見を出してですね、元となるものは朝霞市の方からいろいろ意見を出した中から県がつくっていています。今回改正になってもですね、特に朝霞の方でこういうふうにしようとかそういうものがなくてですね、ただもう少し具体的に文言を直してもらおうとしたんですけど、埼玉県中全部同じ法律でやらずにちやなりませんので、ごく僅かなことしか直せなかったということが事実です。

○田辺委員

2ページのね、このプリントの2ページの将来都市構造って、ゾーニングってありますけれど。このゾーニングに関わる、あるいは3ページで言ったら一番最初の「自然と調和したゆとりある都市づくり（都市整備）」の土地利用に関わることで、個別でももちろんこの総合振興計画の中にこれを入れていくことは別にいいと思うんですね。だから今後、例えば先ほどの254の周辺に関してどうしていくのというのはここで議論して全然構わないと思うし。それがまったく主体性がないことであるわけじゃないと。鈴木さんと私も都市計画審議員なので、その中で、今の話はそのいわゆる整開保という県の都市計画マスタープランというのがありまして、それはもう県の方で大体決めてきて、なかなか我々がいくら言っても言うことを聴いてくれないというような現実にあるということをおっしゃったまでだと思うんですね。

○大石委員

はい、ありがとうございます。

○沼田会長

違うテーマで何かございますか。

○安野委員

すみません、ちょっと違った観点なんですけれど。

さっきまで議論した将来像を踏まえてこれを見ると、あれ、関連性が見付からないなというのが私の正直な感想です。4ページ目のたたき台。仮に第4次計画の将来像をそのまま維持すると、最初「水と緑に満ちた」というのが最初のフレーズじゃないですか。それをこのたたき台で見ると、どこにあるのかなと言うのが、ぱっと見て分からない、私の正直な感想であります。それをもうちょっと順番と分け方、専門知識が分からないのでそこは特に意見はないんですけど、このままだと分かりにくいかなというのが私の感想です。

○中村委員

先ほどから、皆様のご意見を拝聴していて、たたき台に対する多少批判的なご意見が多かったように思います。私たちはこのような計画づくりをするときに少し時間をかけてワークショップを

よくやります。例えば、「水と緑」という一つのキーワードを取り上げたときに、先のゾーニングの話にもありましたがここでどのようなことが考えられるのか。多分にこのたたき台とは違ったものになるかもしれません。「安全・安心」というキーワードもそうです。「安全・安心」といっても防災上の観点からの暮らしの安全もあるでしょうし、都市計画の中で道路を考えたときにはバリアフリー、あるいはユニバーサルデザインが、あるいは消費生活を取り上げればいま話題の振り込め詐欺等の特殊詐欺など、いろいろな問題があり、これらも市民の「安全・安心」に関わってきます。そのように問題を仕分けしながら、では「安全・安心」というキーワードを出したときに、どのような施策なり、事業が必要となるだろうか。このような形で少し問題を整理してみたらいかがでしょうか。これがまさに先ほど会長がおっしゃっていた市民からの目線の新しいマスタープランづくりではないかと私は思います。

もし時間に余裕があったら、少し時間を取ってワークショップをやってみましょう。また、新しい視点が見出せるかもしれません。その際に、参考となりそうな全国の自治体の事例があると助かります。

○百武委員

まずちょっと違う視点なんですけれど、前回の第4次の際の、今日は議論しませんでしたけれど基本方針のところ「パートナーシップによるまちづくり」ということで、「市民協働のまちづくり」ということを、一つ別の進める方での基本方針ということで挙げられているんですけど、その部分はあまり朝霞のよくないところで、市民参加の場、仕組みが不足だとか、そこに対して満足度がまだ足りてないんじゃないかという意識があって。これまでのワールドカフェですとかアンケート調査から見ると、ほかの、先ほどの「やすらぎと生きがいのあるまち 水と緑に満ちた」という部分は、かなりの部分がもう達成できているんじゃないかということだったんですけど。今この4ページの大綱の中身を見てみると、「基本構想の推進に向けて」というところに「市民参加と協働によるまちづくり」というのが一応入っているんですが、もしこれを一つの基本方針というか基本目標に格上げするのであれば、これも一つ項目として挙げて、逆にコミュニティとか市民活動、10項目目に出ているようなことも加えて、きちんと政策を位置付けてあげることが重要なのかなというふうに思います。

○沼田会長

そのほか、まだ御発言のない方いらっしゃいますか。

まだ10分程度時間があると思います。4時ぐらいまでに終わりたいなと思っていますけれど。

○斎藤委員

先生方がおっしゃっていることは全部もつともで、その根本的な問題というのは全てが関連して

しまっているということですよ、これは、どれか一個を取り出してそれだけで完結するような問題ではなくて、これをやったら、実はこっちの問題にも関連して、こっちの問題にも関連することであるにも関わらず、田辺委員がおっしゃったような、市の行政の方の区割りの方に当てはめ過ぎてしまっているというところが、根本的な議論の出発点になってしまっているんじゃないかなと思います。

そうしますと、先ほど中村委員がおっしゃったように、もっといろいろな議論をした方がいいと思います。ただ私の個人的な発想ですと、これずっと4ページを見ていきますと、大ざっぱに分けてですね、三つくらいに分けられるのかなと、あるいは四つかもしれませんけれどね。一つが、朝霞市の空間計画ですね。緑地がどうだとか道路がどうだとかという空間計画が一つ。二つ目が教育システムですね。システムという意味は広いですけど。幼稚園から大学まで、あるいは市民参加とかも含めて、教育システムが一つ。三つ目が産業振興ですね。この大きく三つ。あと四つ目が入るとすると、財政基盤とかこの辺が入るかもしれませんけれど。大きくこの三つに分けられると。この三つに分けた上で、行政の方で配置も考えていただければいいのかなというように、そういうような気がするんですね。

○渡邊委員

すみません。先ほど百武委員の方からありました、私も「市民との協働」という文言が、4次で「市民参画の推進」ということで、すごく強調して構想推進のためにということであつたことがありまして、今回5次の大綱の中で(21)に「市民参加と協働によるまちづくり」という形で言葉として挙がっているんですけど、4次としてそのように取り上げていて、実際この10年というか、振り返って実現できていたのかどうか。もしまだまだ市民の意識がそこまで達してないのであれば、先ほどおっしゃったように格上げするなりもっと重要視するべき項目だと感じますし、もしそれ以上に市民の意識が高まっているのであれば違う文言というか、もうちょっと先を進んだ形の表現で、この「市民参加と協働によるまちづくり」という言葉を使ってほしいなと思いました。

○佐野委員

今現在ある計画のレビューとかですね、振り返りだとか、それが今後の我々の審議会の中でどんなふうにするのかということと、それから今いろんなお話が出てきて、これでフリーディスカッションをやって、全部がまだ出ているという状況ではないと思うんですよ。どのくらいの時間がかかれるのかとか、その辺のこの先のところをちょっといろんな計画があると思いますので、教えていただきたいと思います。

○事務局・田中審議監

まず、現行の第4次の関係の、ある意味では振り返りの状態を今各部会の方で始めていますので、一応3月いっぱい基本的に総括をしてほしいというお願いをしてあります。ですので、次回この審議会、恐らく4月になると思うんですけど、4月に入った段階で取りまとめが間に合えばその時点でお示しできると思います。

それから、今後、今日ここでなぜ一種のジャンル分けの話をしていただこうと思ったかという、要するに市の各作業部会の方がそれぞれ総括をしながら課題点を洗い出しているの、その課題点を示しながら、課題点というのは課題克服のために次に何を手を打っていかなくちゃいけないかという議論、要するに将来に向かって議論をするように指示してあります。その議論を進める上で、この辺のカテゴリー分けがある程度、骨組みが明確じゃなくてもある程度方向性が見えていれば有り難いかなというふうに思いました。それで今日そういうお話をしたんです。この辺の話については、4月以降に具体的に、基本計画の今度は第5次の将来に向けた取組ということに論点が各部会で移っていく予定なので、その辺でその状況を見ながらカテゴライズするという、もう一度見直すということは可能だというふうには思います。

○沼田会長

ワークショップ、中村委員が言ったワークショップの活用なんかも今後ちょっと検討したらいいかなと思います。

はい、田辺委員。

○田辺委員

役所の方で言いにくい部分だろうと思うので私の方で申し上げておかなかちゃいけないのは、こういう審議会で、いろいろとあれもこれも皆さんね、市民の方たちが求めて、それをここで取りまとめて計画にしましょうと言っても、じゃあ財政はという問題があつて、一番下に、このたたき台のところで「財政基盤の強化と健全な財政運営」というところがありますけれど、実際のところはあれもこれも全部計画に載せたからと言って、それを実際に市が実施計画に載せてやれるかどうかというのはまた別問題なんです。これをまた更により良くと言ったときに、特に朝霞市が財政支出している部分としては、斎藤委員は空間と教育と産業とおっしゃっているけれど、一般的に地方自治体の、一番身近な自治体のやらなくちゃいけない部分として、教育と福祉の部分というのは非常に大きいと思うんですね。そこはやっぱり抜かせないだろうと。ただそれにしても、福祉に関してもかなり非常に財政的にも重くなっているという現実があると。後は、今までに比べると道路だとか公園だとかはある程度はもうできてきてるだろうけれど、実は広がってないところか歩道だとか、まだまだ全然できていないところはいっぱいありますけれど。その昔、70年代くらいだと歩道整備率というのが非常に重要で、それが何パーセントいったかというのがかなり重要だったんで

すけれど、今はもう歩道が大体、歩道って道路の舗装率ですね、舗装率はほぼ100パーセントに近い状態になっているということで、次は何だと言ったら歩道と車道の分離だとかね、あるいは自転車道をつくるだとかね。そんな話がどんどん広がっていくと、財政としてなかなかいろんなものを全部やれませんよという、そこは非常に歯がゆい部分だと思うんですね。ですから、そこら辺その財政フレームとここの計画とが最初からある程度融合させてやるものなのかどうかというのが、一つ考えなければいけないものなんじゃないのかなということだけちょっと申し上げておかなくちゃいけないかなと思って。

○野本委員

ちょっと、あまり具体的に出てきているところだけ聴きたいんですけど。

4ページの(20)のところに、「効率的な電子計算システムの維持」というのが表記されているんですけど。こういう計画の大綱の段階でですね、こういう具体性はいいのかどうかちょっと。なぜかなど。行政システムとか、いわゆる建築して何年も経っているような施設はいっぱい多いわけですから、そういう行政財産をもっと効率的に見ていくとかいうふうなことであれば維持していくとかってことで分かるんですけど、なぜここで電子計算システムだけが突出したのかちょっと理解に苦しむというところですよ。

○高橋委員

私は産業開発で、例えば内間木の墓地とかそういった問題が出てきているかと思うんですけど。例えば内間木の老人ホームに私はちょっと行ったことがあるんですけど、内間木の方は老人ホームがあったり、こちらの緑の本の後ろの方に載っているんですけど、例えば福祉作業所があったりというように福祉の施設もあるんですよ。あとは公園とかもありますので、次の開発ということではやっぱり内間木の開発はどうするかというのはちょっと重要になってくるかと思うんです。ただ、そこまで総合振興計画ということでちょっとどのような将来像を持ったらいいいのかというのがちょっと分からないので、そういった何か情報なり指針なり、考えていただけたらなと思いますし、内間木の住民の方も、例えば交通が不便だとかいったいろいろな要望もあると思いますので、ここら辺りの開発なり整備なりというのは、今までは朝霞の中央の環境はよくなってきましたので、今度は広げた感じでやっぱり整備していくところにきているのかなと思っております。

○沼田会長

それは周辺部ですか。

○高橋委員

周辺部ですね。

○沼田会長

それについて調べていただいて、もし分かったら教えていただくことにします。

時間が来ましたので、また会長個人のざっくりした感想を申し上げます。

私、市民意識調査をして全部読んで、問9ですけれど、本体で56ページにあって、問9「将来の朝霞市はどのようなまちであればよいと思いますか。あなたのイメージに近い次の中から三つ選んでください。」という中で、1位が「安全・安心なまち」というのが71.8パーセントになっています。びっくりするのはこの数字じゃなくて、その次の2位が「快適なまち」というのが38パーセントという、ほぼ半分しかないんですね。この1位と2位の差のものすごさと言うんですか。これの1位を知るために市民意識調査をやったわけですから、この71.8パーセントの思いに応えないことはあり得ないわけで、当然これを受けて第5次大綱の案の一番にこれが出てきたんだろうと思いますけれど、この意識調査で言っている「安心・安全」は「防災・消防」ではないと思います。この市民の「安全・安心」の思いを読み違えると駄目なことになるので、多分この審議会で、この意味の中身をきちんと解いていかないと駄目なんだというふうに私個人は思っていて、多分まちをどうやって耐震化するかという話とか、あるいはコミュニティをどうやって強靱化するかとかというような話で、そこから多分「連帯」とか「協働」とかっていう、今まで皆さんが言われたようなことにつながっていく話なんだろうと思うんですね。だから「防災・消防」はないよりはあった方がいいというレベルのことで、この「安全・安心なまち」をどうやってつくるのかというのはもっと深い話なので、この意識の重さというのをどうやって受け止めるかというのが、皆さんで是非時間を使って議論をして、ここが解ければ全体が見えてくるというふうに、将来像も多分ここから見えてくるというふうに私は個人的には思っております。

○田辺委員

今のお話の、私も思うんですけれど、規制改革で今緩めるという話はすごくありますけれど、朝霞市でやっている中の、開発も市はやっているわけですから、逆にその規制もやっているわけですね。その規制の特に建築の基準だとか、あるいは開発の許可だとかということで規制をしているんですね。良質な住宅の提供というのは一般民間企業がするわけですから、それを市がそれをOKするかしないかというそのセクションがあると。安全なと言ったときに、防災上、あるいは災害にも強いまちをと言ったときに、やっぱりその建築、建物だとか開発だとかということに関してやはり市の役割が非常に重要なのでね、そういう意味で防災の中に、先ほど道路建設の交通の部分はありますけれど、その市がやっている規制の部分、開発規制だとか建築の許可だとか、そういう部分というのは本当はもしかしたらそこに入ってくるのかなっていうね、視点としてはね。そこだけです。

○沼田会長

はい、ありがとうございます。

◎3 その他

○沼田会長

時間いっぱいですので、まだ議論したいところですけど、続きまして議事の（3）その他について事務局より説明をお願いします。

○事務局・又賀主査

それでは、次回の会議につきましては、先ほどもありましたけれど4月中旬から下旬に一応目安としては開催したいと考えておりますので、4月当初に日程調整表の方をお送りさせていただきます。

あと、中村委員からありましたワークショップにつきましては、ちょっと検討したいと思いますのでまた御報告いたします。

○沼田会長

4月中下旬と言いましたが、また日程調整をしたいと思います。よろしく願いいたします。

◎4 閉会

○沼田会長

今回は今後の審議会の進め方について議論し、開催日については4月当初に日程調整表を事務局から委員にお送りするということになります。

以上を持ちまして、本日の会議を終わります。

御協力ありがとうございました。